

|          |                                      |       |          |
|----------|--------------------------------------|-------|----------|
| 大学等名     | 東京都立産業技術高等専門学校                       | 申請レベル | リテラシーレベル |
| 教育プログラム名 | 東京都立産業技術高等専門学校 数理・データサイエンス・AI教育プログラム | 申請年度  | 令和 6 年度  |

R5年度3月に開催された進級判定会議及び教務委員会において、以下の内容が点検・検証され、運営責任者である校長から承認が得られた。

| 自己点検項目                                                                  | 評価結果 | 評価理由                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-------------------------------------------------------------------------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| プログラムの履修・修得状況（全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況）                             | A    | 本教育プログラムを構成する科目は、荒川・品川キャンパスともに第一学年に配当されているものづくり工学科目として位置付けられている。またそのほとんどの科目は必修科目であり、2年次への進級には履修だけでなく修得が義務付けられている。また、荒川キャンパスで新設したデータサイエンス概論は必修科目との兼ね合いから、現状、選択科目となっているが、全員が履修を行うような指導をするとともに、常用カリキュラムに並列開講無しで設定しているため、本年度まで全員が履修している。この結果、年度が経過するごとに履修者数は増加していき、令和9年度には100%の履修率が達成できる見込みである。 |
| 学修成果について                                                                | A    | 本教育プログラムを構成する科目についてはルーブリックによる理解度チェックを収集する仕組みが構築されている。このため、教育内容に対して学生自身がどの程度の学習成果を得られたかを評価することができる。ルーブリック評価によると、受講した学生の95%が設定した目標に到達できたことがわかる。                                                                                                                                               |
| 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度、及び後輩等他の学生への推奨度                                    | A    | 本教育プログラムを構成する科目については学生からの授業アンケートを収集する仕組みが構築されている。これにより学生自身が授業の内容について、どのように感じて理解しているかを知ることができる。                                                                                                                                                                                              |
| 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価、及び産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見               | C    | 本校の運営協力者会議において、既に当校の数理・データサイエンス・AI教育プログラムの内容は説明済みであり、産業界からも期待している旨の御意見を賜っている。今後、卒業生が輩出された後、その評価などを参考として教育の改革につなげていく。                                                                                                                                                                        |
| 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ、学ぶことの意義」を理解させること、及び内容・水準を維持・向上しつつ、「分かりやすい」授業とすること | B    | 本教育プログラムを構成する科目において、座学だけではなく、ビデオ視聴、プログラミング演習、アクティブラーニング等、学生自身が興味を持って取り組むことができる授業内容となっている。今後も実践的な教育を取り入れ、学ぶことの楽しさを感じながらその意義を理解できるように教育を実施していく。                                                                                                                                               |

A：達成している、B：ほぼ達成している、C：やや不十分、D：不十分